

都市再生整備計画 事後評価シート
大分市中心市街地地区

令和 2年 3月

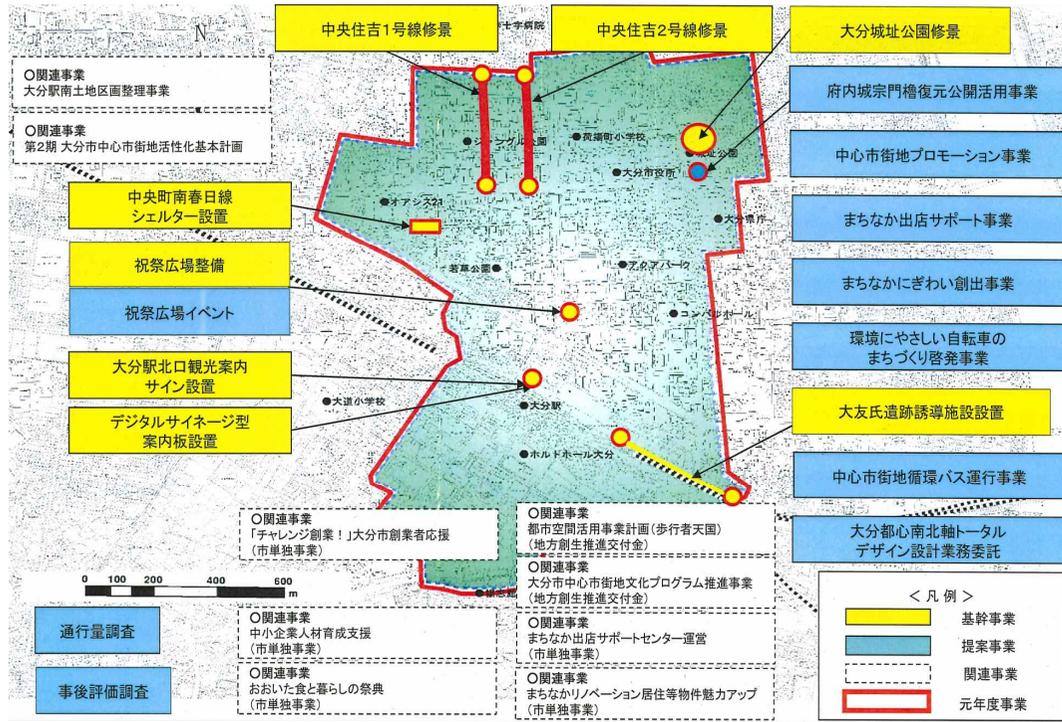
大分県大分市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	大分県	市町村名	大分市	地区名	大分市中心市街地地区			面積	153ha					
交付期間	平成26年度～令和元年度	事後評価実施時期	令和元年度	交付対象事業費	1,438.6	国費率	0.43							
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(観光案内サイン設置、デジタルサイネージ型案内板設置)、高質空間形成施設(中央住吉1号線修景、中央住吉2号線修景、中央町南春日線シェルター設置)											
		提案事業	地域創造支援事業(まちなか出店サポート事業、まちなかにぎわい創出事業、環境にやさしい自転車のまちづくり啓発事業)、事業活用調査(大分都心南北軸一ータルデザイン策定調査、通行量調査、事後評価調査)											
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし	事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
		提案事業	なし											
	新たに追加した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(祝祭広場整備)、高質空間形成施設(大分城址公園修景、大友氏遺跡誘導施設設置)	事業名		削除/追加の理由		計画期間変更やモニタリング結果を踏まえて「歩行者通行量」「まちなか滞留時間」の目標値を上方修正するとともに、新たな指標として「中心市街地の空き店舗率」「小売業の年間商品販売額」を追加した。						
提案事業		地域創造支援事業(中心市街地循環バス運行事業、中心市街地プロモーション事業、府内城宗門櫓復元公開活用事業、祝祭広場イベント)	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響				計画期間延長により事業効果が継続的に発揮されることが期待できることから目標値を上方修正した。(モニタリング結果を反映)							
交付期間の変更	当初	平成26年度～平成30年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響											
	変更	平成26年度～令和元年度												
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ			
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期			
	指標1	歩行者通行量	人	288,290人	H25	352,100人	R1	343,653人(H28)	311,950人(H30)	△	あり なし	●	従前値より歩行者通行量は増加している。求心力のある施設整備やイベントの実施、回遊性を高めるための修景整備などが一定の効果として現れていると考えられる。	令和2年5月頃
	指標2	まちなか滞留時間	%	29.7%	H25	40.2%	R1	52.0%(H28)	57.7%(H30)	○	あり なし	●	南北一体化が進み商業施設や広場等が増えたこと、案内など情報の発信が充実してきたことにより、中心市街地の「滞留性」が高まったことが効果発現要因につながったと考えられる。	令和2年5月頃
	指標3	中心市街地の空き店舗率	%	11.1%	H28	7.9%	R1	-	9.8%(H30)	△	あり なし	●	従前値より空き店舗率が減少しており一定の事業効果が発現しているものと考えられる。中心市街地への来街者は事業開始前に比べ増加していることから、今後も空き店舗率は減少傾向で推移していくものと考えられる。	令和2年5月頃
指標4	小売業の年間商品販売額	億円	4,863億円	H26	5,000億円	R1	-	5,551億円(H28)	○	あり なし	●	南北一体化が進み商業施設や広場等が増えたこと、案内など情報の発信が充実してきたことに加え、来街者の増加が効果発現に寄しているものと考えられる。	令和2年度内	
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ			
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み	(総合所見)	予定時期			
その他の数値指標1	-	-	-	-	/	/	-	/	/	-	-	-		
その他の数値指標2	-	-	-	-	/	/	-	/	/	-	-	-		
4) 定性的な効果発現状況	ラグビーワールドカップに合わせて祝祭広場で開催したイベントでは、多くの市民や観光客で賑わいをみせ、都市機能の利活用の推進や中心市街地の魅力向上に一定の効果を発揮していると考えられる。													
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等						
	モニタリング	-		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-						
	住民参加プロセス	○府内城宗門櫓の修復工事の様子について見学会を実施し、市民に公開した。 ○祝祭広場整備にあたり公開プレゼンテーションや意見交換会などを開催した。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 実施過程を市民と共有することで、中心市街地の魅力を高めることができた。整備効果を最大限に発揮させるため、他事業においても市民公開により実施過程を共有するとともに、合意形成活動を図るものとする。						
	持続的なまちづくり体制の構築	-		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-						

様式2-2 地区の概要

大分市中心市街地地区(大分県大分市) 社会資本整備総合交付金の成果概要								
まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標 中心市街地における都市機能の利活用の促進(都市機能の利活用による親しみづくり、親しみや調和の醸成) 目標1：中心市街地の南北一体化による都市機能の利活用と賑わい促進 目標2：人にやさしい魅力ある都市空間の育み	歩行者通行量	単位：人	288,290人	H25	352,100人	R1	311,950人	H30
	まちなか滞留時間	単位：%	29.7%	H25	40.2%	R1	57.7%	H30
	中心市街地の空き店舗率	単位：%	11.1%	H28	7.9%	R1	9.8%	H30
	小売業の年間商品販売額	単位：億円	4,863億円	H26	5,000億円	R1	5,551億円	H28



都市再生整備計画事業における
【基幹事業】
 道路、公園、下水道、地域交流センターなどまちの基幹となる施設等の整備に関する事業
【提案事業】
 社会実験、まちづくり活動など市町村の提案に基づく事業

まちの課題の変化

道路の修景整備や広場整備に加え、さまざまなソフト事業(提案事業)に取り組むことで中心市街地の活性化が進んだ。特に「まちなか滞在時間」の目標値を達成するなど、事業開始前に比べて地区への滞在時間が増えており「滞留性」に大きな効果が表れた。一方「歩行者通行量」は目標値を達成しておらず、「滞留性」が一部に留まっていることが考えられる。中心市街地の活性化には、「回遊性」を向上させ「点」から「面」へ賑わいを広げることが新たな課題となっている。また、中心市街地には大分駅ビルやホルトホール、県立美術館が開業し、本整備事業にて新たに祝祭の広場を整備していることから、これらの既存施設の有効利用や、JR大分駅周辺の連続立体交差に伴う鉄道残存敷等の低利用地の有効活用が求められている。

このような中、課題としては以下があげられる。

- ・南北一体化に続き、中央通りを挟む東西商業地の連携強化による中心市街地の活性化が求められる。
- ・JR大分駅周辺の連続立体交差に伴う鉄道残存敷等の低土地利用の有効活用が求められる。
- ・来街者に対する適切な案内と情報提供の充実が求められる。
- ・都市機能や施設の充実に伴い、中心市街地の魅力回復やさらなる賑わい創出が求められる。
- ・さらなる来街者の増加や中心市街地の活性化を目指し、府内城や大友氏遺跡などの歴史的資源を活かしたまちづくりが求められる。

今後のまちづくり
 方策
 (改善策を含む)

「回遊性」「滞留性」の向上 + 歴史的風致を活かした来街者の増加 = 賑わいを「点」から「面」へ広げ中心市街地の更なる活性化を図る。

既存施設や低土地利用の有効利用により、これまでの事業成果である「滞留性」を維持するとともに、「回遊性」を高めることで中心市街地の賑わいを創出する。また、来街者の増加を図るため、商業地域としての魅力を高めるとともに、府内城や大友氏遺跡などの歴史的資源を活かした観光拠点整備や拠点を連絡する路線の景観形成により「回遊性」「滞留性」の向上を目指す。